

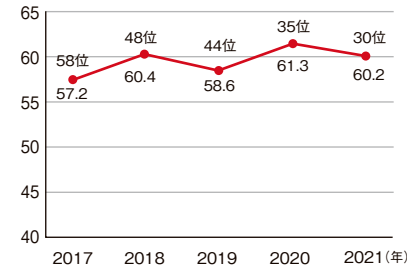


学生数/約9000人
 学部/工、システム理工、デザイン工、建築
 大学院/理工学
 ●THE世界大学ランキング2021/1001+位、同アジア版2020/401+位、同日本版2021/=30位、
 同インパクトランキング2021/801-1000位

THE世界大学ランキング日本版2021の結果

分野	スコア	順位	参考データ
総合	60.2	=30位	外国人学生比率/6.0%
教育リソース	42.6	99位	日本人学生の留学比率/16.8%
教育充実度	76.1	34位	外国語で行われている講座の比率/8.0%
教育成果	48.1	30位	学生の男女比/18:82
国際性	76.1	35位	

総合ランキングの推移



教育力とその広報

教育の特色	<ul style="list-style-type: none"> ▶「世界に学び、世界に貢献するグローバル理工学人材の育成」が教育目標 ▶海外学生と協働する「グローバルPBL」等を通じて、学生の“実践力”の向上、グローバル教育の推進を図る
成果	<ul style="list-style-type: none"> ▶「THE世界大学ランキング日本版2021」では、「国際性」と「教育充実度」のスコアを前年から伸ばし、総合で私立大学6位タイにランクイン ▶「有名企業400社」への就職率が向上など、産業界の評価を確立
広報	高校生 ▶高校生が日常的に使用しているメディア(SNS、YouTubeなど)での広報を戦略的に強化。特に動画での情報発信に力を入れ、ライブなども取り入れながら大学への興味と理解を深めてもらう広報を展開
	高校教員 ▶高校教員向けの入試サイトで、その高校の出身者の大学入学後の成績や活動記録を開示。高校の卒業生も高校訪問に同行するなど、大学での成長を見てもらう

注目!

学修環境や授業の改善、広報活動に学生の力を積極活用

芝浦工業大学では、学生調査が注目される10年以上前から、学生自治会が自主的にアンケートを実施して、大学に対して授業や環境の改善を提言する活動が続けられている。大学側も、学長・学部長以下の教職員が直接学生から話を聞く機会を設けて、学生からの意見を吸い上げ、改善に努めているという。また、授業改善のために「SCOT」を実施しているのも特徴だ。これは、一定のトレーニングを受けた学生が、教員の希望に応じて授業を観察、学生の視点で改善点をレポートするもの。教員自身では気づかない改善点を知ることができる。学生は広報活動にも参画する。「芝浦ウラちゃんねる」は、在学生による大学PR動画プロジェクト。企画・撮影・編集を学生が手掛け、リアルな大学生活を発信しているため、SNS世代の高校生に好評だという。



▲学生が主体で運営するYouTubeチャンネル「芝浦ウラちゃんねる」。再生回数が6000回を超える人気動画も。

CASE STUDY

教職学協働で進める教育と広報

芝浦工業大学

理工系私立大学の中で、突出して教育改革に積極的に取り組む芝浦工業大学。本年4月に就任した新学長に、その成果と今後の施策について聞く。



学長 山田 純

やまだじゅん ●東京工業大学大学院理工学研究科博士課程中退。1988年東京工業大学工学部生産機械工学科助手、1995年山梨大学工学部機械工学科助教授。2001年ケンタッキー大学客員准教授。2005年4月芝浦工業大学工学部機械工学科教授。学長補佐、工学部長を歴任し、2021年4月より現職。博士(工学)。

学生と共に実現させる学修者本位の教育

理工系でありながらSGU事業に挑戦し、英語教育の拡充と、海外の学生と共に取り組む100のグローバルPBLを提供。^{*2} AP事業ではアクティブ・ラーニングを推進し、今では8割の授業で導入されています。教育のDX化についても、本事業でLMSを整備し、2019年よりオンライン授業に取り組んでいたことから、コロナ禍での遠隔授業への移行はスムーズにできました。これらを発展させた、「学生の学びの心に火をともし、ラーニングアナリティクスによる教育改革」計画が、文科省の「Plus-DX事業」にも採択されました。これは、学生のやる気になるメカニズムの解明が目的です。大学でどんな学修経験があれば意欲的に学ぶよう

になるのか、データを分析し、教育改善に結びつけます。卒業生のデータも加われば、めざすキャリアのために在学中何をすべきかという指針になり、ロールモデルづくりに役立つでしょう。数々の改革の背景には、「実践力のあるエンジニアを育成し、アジア工科大学トップ10をめざす」というミッションがあります。本学では歴代学長のリーダーシップのもと、文部科学省の施策について積極的に情報収集・分析し、ミッションに照らし合わせて対応方針を決めてきました。それを受けて教職員がアイデアを出し、補助金事業も有効に活用しながら教育改革に取り組む、というサイクルができて上がっています。

教職協働で進める改革に学生が加わる点も特徴です。訓練を受けた学生が学生の視点で教員や授業を観察し改善を促すSCOT活動に加え、学生自治会が行う学生調査の結果を教育改善に生かしています。2019年からは、授業アンケートを「学生がどれだけ学び、何ができるようになったか」という内容に改めました。このように本学では教職員に学生を加えた「教職学協働」の体制で、「学修者本位の教育」に取り組んでいるのです。

募集力強化のポイント は高校教員訴求と学生の協力

改革の成果として日本ランキングの総合順位が年々上がり、励みになっています。こういった偏差値とは異なる評価軸で大学を見てもらえるようになれば、本学のブランドも向上することでしょう。学生募集について言えば、2つ課題があります。一つは、圧倒的に少ない女子学生の獲得です。企業で女性エンジニアのニーズが拡大している今、女子枠の入試を設けたり、私自ら、オープンキャンパスで女子向けブースの設置を提案したりと、試行錯誤中です。

もう一つは、高校教員向けの広報です。本学の教育を、重要なステークホルダーである高校教員の心に響く形で伝えたい。高校訪問や、専用サイトの開設などの取り組みの結果、評判調査も向上し始め、手応えを感じています。こういった募集広報も、学生の力が頼りです。SNSや動画といった新しいメディアは、学生のほうが上手です。彼らのつくった動画は1か月で1千回以上再生されるものも増えてきました。教育から広報まで、教職学でアイデアを出し合い取り組むこの環境こそが、本学の強みと言えるでしょう。

*1 スーパーグローバル大学創成支援事業 *2 大学教育再生加速プログラム *3 デジタルを活用した大学・高専教育高度化プラン *4 Students Consulting on Teaching 取材・文/本間学 撮影/荒川潤